

「真光寺川を清流にする会」
世話人 山口 拓郎

寒い日々が続いている。我々も「冬籠もり」を強いられている。ゴミが次第に目につくようになってきた。水が冷たく本格的なゴミ拾いが出来ないのが辛い。然しこの3カ月を振り返ってみると「会」は着実に成長しエネルギーを蓄積することが出来たようだ。「冬きたりなば春遠からじ」春の訪れがひたすら待たれる日々である。12月から2月にかけての「会」の歩みを報告してみたい。

12月のこと-川が運んできた「便り」

「12月作戦」

12月9日(土) 10時半-15時
快晴微風。集合場所の「開戸親水」へ急ぐ。杉原さんと浅瀬に降りてゴミ拾いを始める。ゴミ袋がアツと云う間に一杯になる。竹内さんがゴミの中に和光鶴川小学校の大川先生の「手紙」を発見する。紙はふやけ字は滲んでいたが「子供達と真光寺川のことを調べています。応援して下さい。ご連絡下さい。」と読み取れた。川が運んできた「便り」何か天の啓示に似た不思議な感慨に捕らわれる。

定点観測

気温・水温・透視度・PH・COD等真光寺川の方が鶴見川より澄明。30分で終了。

いちよう会館での討議

真光寺川の流れを眺めながら遊行、下堰橋親水を経て「いちよう会館」へ。例によって「おむすび」を頬張りながら討議にはいる。

- 1) 「せせらぎの小径」について
榎本さんの報告。
地元・デベロッパー・行政との間で話が進められている。榎本さんとしては「折角造るのであれば水が豊富に流れ魚や鳥が棲み子供達の遊び場になるものにしたいと願っている」とのことであった。
- 2) 「真光寺川里親制度」について
我々の活動を取上げた「暮らしの風」誌「清流を創る」で示唆されていたことである。異口同音に「是非実現したいものだ」と云う意見が出された。
1月以降検討に入るようになった。
- 3) 「棲息している生物」の調査
子供達に川への関心を持ってもらうために棲

息する鳥類・魚類・爬虫類・昆虫等の観察・調査を進めたい。「善は急げ!」1月から取進めることになった。

*後日「エコネット」の例会で報告したところ「エコネット通信」にシリーズで掲載し小冊子に纏める案が出された。

4) 「地域への拡がり」
我々の活動は地元を根を生やしたものでありたい。最も心強いのは先祖代々この地に住まわっている方々の参加である。神蔵さんの紹介で石川洋一郎さんが見えられた。喜ばしいことである。



- 5) 新会員の加入
新たに宮川一男さんが加入。会員は20名となる。

年の瀬 思いがなげの便り

12月28日の朝、朝刊を取りに出たらズリと重い封書が入っていた。和光鶴川小学校の大川先生からのものだ。そう云えば「川が運んできた」便り」に返事を差上げておいた。開封して驚いた。立派な資料の数々が出てきた。

- 1) 「地域・自然のなかで生き生き学ぶ総合学習」
B5、40ページ。先生が学習の過程、成果を纏めたレポート。児童達が苦勞しながら手探りで「地域の学習」に励んでいる姿が生き生きと記録されている。
- 2) 「2学期学習のまとめ」
総合学習に対する児童の感想文集。
- 3) 「能ヶ谷・真光寺川の昔新聞集」I・II・III
児童が作成した新聞の集約版
- 4) 「真光寺川2001年カレンダー」
各月、魚の版画をデザインしたもの

何れもなかなかの出来栄でレベルが高い。「皆に見てもらおう」そう思い心が明るく弾むの覚えた。

1月のこと-メダカが泳いだ!

1月3日 榎本さんから電話。「せせらぎの小径」につき関係者の会合があり榎本さんの提案で可成りの進展があった由。今年は年初早々縁起がいい。

1月11日 下水道局・守田主任から電話。「1月作戦当日、森川係長と参加してもいいですか?」との問合せ。「勿論、願ってもないことです。お待ちしております」と返事する。

「1月度作戦」

1月20日(土) 10時半-14時
曇天。10時10分開戸親水に着き先着の大山さんと浅瀬のゴミ拾いを始める。ほど無く森川係長・守田主任も見え挨拶もそこそこゴミ拾いに参加して下さい。ありがたいことに拾得したゴミ類は車に積んで持ちかえり下さることになった。

「定点観測」
鶴見川サイドは上流で土木工事でもしているのだろうか。いつもより濁っていた。

「下堰橋親水場で魚類の観測」

先月の申合せにより魚類の観測を行う。親水には大川先生と3名の児童、1名の父兄が既に見えている。大歓迎、一諸に作業にかかる。田島さんが網を用意してこられる。瀬に近い草むらの下でメダカが2匹捕れる。メダカは水のきれいな川にしかない筈だ。皆、奇跡を見たように興奮する。

「能ヶ谷いこい会館」での打合せ
大川先生・児童・父兄にも無理を云つて参加してもらおう。例によつて車座になつて「おいなり」を頂きながら始める。

- 1) 新会員紹介
高橋さんのご紹介で伴 武彦さん。コンサルタントをおやりになつているそうで環境問題にも詳しい。強力な「助っ人参上」で心強い。
- 2) 森川係長・守田主任のお話
市の管轄である「神明の調整池」より上流の状況と今後の工事の見通しについて話された。「現在でも真光寺駐在所近辺では集中豪雨の際は溢水が見られる。治水を第一義とした計画が練られている。ただ極力自然を残すよう工夫していきたい」
会員との間に質疑応答があり有意義であつた。なお貴重な「まだら河川マップ」を20部頂いた。

- 3) 緑山下水処理場の見学
土・日・祭日はオフィスが休みとなるので4月4日(水)を予定。
- 4) 「真光寺川里親の会」の検討
試案を叩き台にして侃々諤々の討議。夢が膨らみ、それだけに意見も多い。漠然とした構想から次第に具体的イメージが出来てくる。
結論は「誰にも親しまれ、入会しやすく、楽しい会にしていきたい」と云うことであつた。

まだまだ話合いたいことは一杯あつたが当日は時間切れで散会となる。

橋のたもとに乳白色の溶液が...

1月24日(水)
夕方、神蔵さんから電話。能ヶ谷橋の下へ平和台方向の側溝から青味がかった乳白色の溶液が流れ込んでいるとのこと。取る物も取り敢えず現場に駆けつける。なるほど、水面を透かして見ると白く濁っている。そして、側溝からなお流入し続けている。通報で急遽派遣された環境

保全課の方々が水を掬い上げてチェックしている。「川の水をきれいにする市民会議」でお世話になっている布施さんの顔が見えたので声をかける。神蔵さんと側溝を上流にたどって見る。鶴二小わきの遊水の空堀から先はつかめない。後日、布施さんの話によると「家屋の壁を貼る際に使用するノリ」の一種らしいとのこと。毒性はないが川を汚染することは間違いない。流出源を追跡したところ川崎市麻生区片平の一画だったそうだ。

橋のたもとの「夏目モーター」の事務所でご主人の話聞く。「家内がカモに餌をやっているが今日みたいに白い水が流れ込むことはしょっちゅうあることだ」とのこと。困ったことだ。

話はいつか真光寺川の昔のことになる。神蔵さんが我々の活動をお話する。「夏目モーター」の工場は「里親ポスト」を設置するには立地的に格好な場所である。温顔のご主人は何度も額かれていた。地元で根を下ろすためには神蔵さんの存在は貴重である。「里親の会」に確かな手応えを感じながら家路につく。

2月10日「里親ポスト」のバナー

「2月度作戦」

2月10日(土)10時半-3時
快晴。朝、郵便受けに大川先生から「わたしたちの真光寺川」が届いていた。「子供達がとりためた映像と教師が取り足した映像を編集してビデオを作りました。今日、公開研究会で発表します」と添え書きがあつた。公開研究会に出席しなかったが「作戦」と重なってしまい残念だ。

10時過ぎに開戸親水場へ。階段のところで一人の青年が鳥を遊ばせていた。よほど夢中になっているのか振向きもしない。家で飼っているらしく側に籠が置いてあつた。浅瀬でゴミ拾い。忽ち3袋が一杯となる。

「定点観測」

新しく支給された透視器は写りがいい。鶴見川も真光寺川も穏かな流れで気持ちいい。

「下堰橋親水場で棲息生物の観測」

先月に引続き観測。やはりメダカがいた。伴さんに体系的観察の方法を考えてもらうことになった。

「いちょう会館での討議」

- 1) 新会員の紹介
神蔵さんのご紹介で小川況さん入会。
プロのカメラマンだそうだ。我が会も多士済々、いよいよレベルが高くなってきた。
- 2) 「里親の会」
「規約」を修正案をもとに検討。
*会が終つて笠井さんと山本さんから貴重な意見がよせられほぼ仕上がった。
「里親ポスト」5個の設置場所。
色々検討する事項が残されている。
- 3) 棲息する生物の観測
体系的に取り組むことになった。
- 4) 稚魚の放流
神蔵さん宅の池にいる稚魚を釣り上げ
3月作戦として下堰橋親水場で放流することになった。
出来るだけ子供達にも声をかけたい。

討議は尽きなかつたが2時に打ち切り、神蔵さん宅に移動。お神楽の練習室で大川先生から頂いたビデオを皆で鑑賞する。

子供達が真光寺川の源流を探查する情景や観音寺の住職に真光寺池の「言い伝え」を聞く場面や、路上に倒れていた狸の話等々興味は尽きなかった。

感銘を受け、充実した気分で散会した。

2000年度あきまつり

真光寺川 2001年カレンダー

